小学校
支援学級

音声入力機能・カメラ機能を活用しよう

八尾市立安中小学校

教科	自立活動	単元名	手話集会に向けて

本時のねらい

・音声入力機能やカメラ機能を活用し、発音を確認しながら手話集会の台本を読むことができる。

本時における１人１台端末の活用方法とそのねらい

・Microsoft Word の音声入力機能を活用することで、表示された文字から自分の発音が正しいか確認する。
・カメラ機能で動画撮影することで、映像と音声合わせて自分の発表を確認する。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

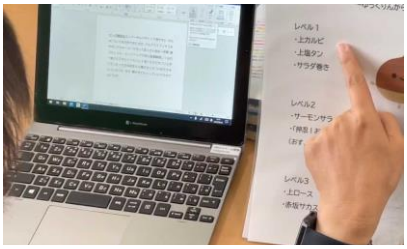
・Microsoft Word　　・ロイロノート

本時の展開

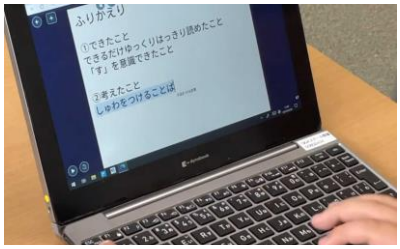
学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 （５分）	○本時のめあてを自分で設定する。 めあて【手話集会の台本をゆっくりはっきり読もう】 【写真１】	・カードに、自分でめあての内容を追加することでより自分なりの目標を持ったり、まだ足りていないことを意識したりすることができる。
展開 （３５分）	○発音が難しい言葉（メニュー表）で読む練習をする。 ○手話集会の台本を読み、撮影した動画を確認する。 【写真２】	・Microsoft Word の音声入力機能（ディクテーション機能）を活用し、発音した言葉が表示・確認する。 ・自分自身を動画撮影し、映像と音声を合わせて自分の発表を確認する。
まとめ （５分）	○振り返りをする。 できたこと「できるだけゆっくりはっきり読めたこと」 考えたこと「手話をつける言葉を考えた」 【写真３】	・「できたこと」「考えたこと」をロイロノートに記入する。

１人１台端末を活用した活動の様子

【写真１】本時のめあてを自分で書き加え設定している場面



【写真２】Microsoft Wordの音声入力機能で自分が発音した言葉を確認している場面



【写真３】「できたこと」「考えたこと」を記入し、本時の振り返りをしている場面

児童生徒の反応や変容

・Microsoft Word の音声入力機能（ディクテーション機能）を活用することにより、教員や友だちが近くにいない状況（家庭や休み時間等）でも、自分が発音した言葉が正しいかどうか、タブレットパソコンで確認することができる。
・難聴児童が日頃から手話も活用するため、カメラ機能（動画撮影）で自分の言葉（音声）だけでなく、手話も同時に確認することができ、友だちにうまく伝わっているのか振り返ることができていた。
・様々な授業の振り返りの場面で、「できたこと」や「考えたこと」などを記入することを繰り返すことにより、次の授業のはじめに、前回の復習から今回のめあてにつなげることができるようになってきている。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・Microsoft Word の音声入力機能（ディクテーション機能）を活用する際、Word の基本設定（文字の大きさやフォント等）や自分の声の認識を設定することで、表示された文字も読み取りやすく、難聴児童以外の児童も音読等で活用できる。
・児童主体の学習を展開するため、自分でめあてを設定したり、動画を撮る操作をしたり、最後の振り返りをしっかりまとめたりする活動・その流れを繰り返ししていくと、児童が可能な限り自分で活動を進めることができるようになる。